



東京多摩プロバスニュース

第 81号

■事務局: 〒206-0021 東京都多摩市連光寺 3-31-3 滝川方 ■編集・発行: 広報委員会 2018. 11. 7.

■電話・FAX (042) 372-2238 ■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

未来のために多摩の創生、再生を!

第 171 回 定例会

日 時 :平成 30 年 9 月 5 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 :関戸公民館第 2 学習室

お客様 :アイデアマラソン研究所所長 樋口健夫氏

出席者 :24 名(会員数 27 名)

第 172 回 定例会

日 時 :平成 30 年 10 月 3 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 :関戸公民館第 2 学習室

お客様 :真空テクノサポート代表 木ノ切恭治氏

出席者 :24 名(会員数 27 名)

理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする



ごあいさつ



「その日私は武道館にいた！」

鈴木泰弘幹事

日本武道館・東京オリンピック柔道会場として建てられた武道の殿堂は、この演奏会！を契機として後にミュージシャン憧れのコンサート会場になり、世界歌謡祭などのビッグイベントが開かれている。

音楽関連の企業に勤めていた 50 歳頃のある日、当時の課の若い社員と昼食をとりながら BGM「ビートルズ」を聴いていた。

「学生時代、武道館での日本公演でアルバイトをしてね…」。私のこの一言で皆の目の色が変わった。それは「尊敬のまなざし」とも「歴史の生き証人を見る好奇心目」……？

せかれるままにこの体験の記憶を呼び戻そうとしたが、あきれたことに殆ど思い出せないのである。ともかくそれは大学 3 年の梅雨の時期であった。武道(柔道、剣道、弓道等)学生連盟事務局が武道館の一角にあり、和弓を引いていた我々に場内整理

のアルバイトの要請が来たのであろう。丁度春のシーズンも終わり、夏の合宿までの余裕のある時期であった。クラシックと民謡、歌謡曲が好きであった私は「ビートルズ」には全く関心が無かったが、ともかく午前 9 時過ぎ、異常な警備の中、学生服姿で学連事務局に集合、諸注意を受け、場内で持ち場(最上階)の位置を確認し開場を待ったと思う。

日本のバンド(ドリフターズだったという)による前座の後、約 35 分の演奏があったらしいのだが勿体無いことに内容の記憶は殆ど無い。覚えているのは、はるか下のステージ上に左利きのギタリストの右顔が見え、女性の嬌声とドラムの音だけが充満した場内で、興奮失神して椅子の下に崩れ落ちた数人を警備員と協力して通路に運び上げただけであった。歌は全く聞こえなかった。

その喧噪の日の 2 週間後、同じ場所でアルトゥール・ルービンシュタインの演奏会があった。若き日の岩城宏之指揮・読売日本交響楽団により、皇帝とチャイコフスキーの協奏曲が演奏された。アンコールは英雄ポロネーズであった。そして私はこの時「静かな聴衆の一人」として感動に浸っていたのである。

74 年の人生ではこんなこともありましたとさ。



小野神社秋祭の神輿・大太鼓が繰り出す(9月9日)

1. 幹事報告

鈴木泰弘幹事

1.1. 新理事の挨拶関連

9月20日東京日野PCの例会に澤会長・鈴木幹事出席。

1.2. 会員構成(敬称略)

会員：27名 内休会1名(瀬尾日出男) 会友：7名(青木ひとみ・池田寛・片山満子・永島仁・蓮池守一・松永弘・山田喜一) 蓮池光枝様は9月27日逝去されました。

1.3. 今年度のスケジュール確認

・全日本プロバス協議会総会

11月28日(水)三重県四日市市にて開催され、当クラブより澤雄二会長・中村昭夫地域奉仕委員長・滝川益男研修・親睦委員長・滝川道子・秋山正仁・伊藤健一各会員の6名参加予定。

・11月28日の理事会は全日本プロバス総会と重なりますが予定通り開催。規約通り副会長を議長とし、研修・親睦委員会と地域奉仕委員会は副委員長に出席願います。

・11月、12月の定例会会場は、関・一つむぎ館4階会議室になります。

2. 委員会報告

2.1. 総務委員会

小池博委員長

1) 第171回定例会

アイデアマラソン研究所所長樋口健夫博士による講話を「アイデアマラソンの実行を勧める」のテーマで実施。

関連記事P3参照

2) 第172回定例会

真空テクノサポート代表木ノ切恭治氏による講話を「真空の使われ方」のテーマで実施。

関連記事P4参照

3) 総務委員会の紹介

今期の総務委員会は新米の小池博総務委員長をベテランの大澤亘・鈴木泰弘・鈴木達夫・神谷真一各会員がサポートして下さり、新進気鋭の所敏行会員の勢いを借り頑張っています。当面の事案としては15周年記念行事の準備を研修・親睦の皆さんと協力して進めること、講話・卓話を楽ししい時間にする事を心掛けて進めている。



総務委員会
の皆さん

2.2. 研修・親睦委員会

滝川益男委員長

1) 稲城の梨狩り

9月18日(火)、お隣の稲城市で梨狩りを実施した。晴天のこの日、参加者14名が車4台で桜ヶ丘を出発し10時半稲城長沼「清玉園」に到着した。「清玉園」は稲城最古の梨園。この日のターゲットは先々代の園主が開発の「清玉」で、園内に入ると低木の枝に瑞々しい玉のような梨の実がたわわ。

各々選別して袋に詰め込む。「中腰での作業なので腰が曲がっちゃうよ」と冗談も飛び交う中、増山敏夫会員から一首
中腰の苦行挽ぐ梨三つまで 胡桃子

もぎたて梨の袋詰めを抱え、再び車を連ねて「天安よみうりランド店」へ。中華料理の昼食会を楽しんだあと午後2時近くに散会した。後日、高齢化のクラブとしては適度の距離と時間帯だった、との評も聞かれた。快く愛車を提供くださった澤会長・上田会員・中村会員に深謝します。



梨狩りに参加
の皆さん

2) 「全陶展と昼食会」(グルメサークル)

上野・東京都美術館の「全陶展」に上田清会員が出展。その見学会を兼ねた昼食会を10月18日(木)に実施した。参加者12名で、堀内会員と小池会員がご夫妻で参加した。

上田会員の今年の作品は「群青」。深い群青色と緑色の釉薬で鹿児島海と桜島と列島とを描き出した気品ある作品で、見学者はその凛とした作風にしばし魅入られていた。

見学会のあと、上野の杜に囲まれた水月ホテル鶴外荘「沙羅の木」で懐石料理の「京づくし」に舌鼓を打ち、その後「旧岩崎邸」を見学して午後4時に現地解散した。



「群青」

2.3. 地域奉仕委員会

中村昭夫委員長

当クラブ創立15周年記念を迎えるに当たり、関戸公民館との共催で「市民企画講座」を来年3月開催すべく予定。市民向けにどのような講師によるテーマを掲げたらよいか検討中である。当委員会に課せられた今年度の重要な課題「市民向け寺子屋」の開設については他のプロバスクラブが行っている市民講座を参考にして、当クラブとしてどのような企画をもって寺子屋を実施していくか、現在知恵を絞って検討中。今期中に寺子屋開設企画案を会員の皆さまに提案したい。従来、行っている会員の特技や知識、経験を活かした小中学生・高齢者向けの個別講座も行ってゆきたい。

2.4. 広報委員会

北村克彦委員長

1) プロバスニュース第81号の編集と発行配布

会員各位から寄稿いただき、10月24日と31日の編集会議で最終校正校閲を実施、11月7日定例会で発行配布。

2) ホームページ更新公開を11月7日予定。

3) 各会員のエッセイなどの寄稿を大歓迎いたします。

1. アイデアマラソンの実行を勧める

アイデアマラソン研究所所長 樋口健夫博士

アイデアマラソンは、私が 1984 年に開始した「毎日何かを考えてノートに書きとめる」というライフスタイルである。

アイデアマラソンでは、自分で考えたことなら何を書いても構わない。仕事のこと、生活のこと、未来のこと、嫁さんのこと、子供たちのこと、孫のことなど。悪口はなるべく書かない。悪口を書いたら 3 倍返しで書かれるものと考えよう。もともとアイデアマラソンを開始したときの目的は、私が商社の駐在として、家族一緒にサウジアラビアに 8 年半過ごしたことだ。電力関係の営業として、激烈な競争に打ち勝つために、できるだけ長く駐在して粘り、考えて書き、考えて書き続けて、知恵を絞り、毎回新しい「手口」で、奇想天外な作戦で、受注を図った。

サウジアラビアでは、単身赴任はきつい。8 年半滞在中のことも、家族が一緒にいてくれたお陰だ。サウジアラビアに連れて行った第一夫人と、息子たち 3 人。これら家族が「もう日本に帰りたい」と言い出さないように子供の勉強を両親が毎日面倒を見て、日本に帰国したときに問題ないように対応をとった。

家族や出張者を毎週砂漠へ遊びに連れていき、休暇は全部、世界中の国々を家族で旅して見聞を拓けた。嫁さんの人生の生きがいもアイデアマラソンで考えて、しつこく迫り、語学の翻訳、執筆などを実行していただいた。この中で、余裕のパワーとしつこさで、仕事の作戦を進めた。

商社でも、メーカーでも、勿論大使館でも、サウジアラビアに 8 年半連続で駐在している人は少ない。しかし、アラビア人は、より長く駐在している人を信用する傾向がある。実際に仕事が取れ始めたのは 4 年駐在してからである。

当時は私が担当していた日本のメーカー側も、必死に考える個性の強い人が多かった。私の無理難題を聞く耳を持ち、私の 6 時間の時差を悪用した夜討ち朝駆けの攻撃にも呆れながらも耐え、実績を増やしていった。私はそのメーカーの担当の課長代理が朝の 6 時半に家を出るのを知っていて、6 時 25 分頃に国際電話で交渉をして、値引きを要請するという汚いやり口で OK を取り付けることがあった。要は、外出直前の母親に「おかあちゃん、お小使い!」と、絶妙のタイミングでねだるのと同じだった。1 円でも下げる努力を忘れなかった。そして期待通りいつも僅差で注文を取った。まさにアイデアマラソンの知恵の勝利だった。メーカーと商社がこれほど、睦まじくビジネスを続けることができたのは本当に珍しいことだった。メーカーは商社に期待し、商社はメーカーから支援を受けた。当時、サウジアラビアの大きな電力会社は国内の設備機器を新たに作る時期にあった。ちょうど、その当時にそのビジネスに集中できたのは幸運だった。メーカーもどんどん出張者を送り

込み、工夫を重ねたことも大切だった。

結果的には、配電関係の膨大な数の機器の注文を取りつけることができた。

講演の中では話したが、「つぶやき作戦」「じゃんけん後出し作戦」「一回の質問で数十億円の注文」「桂米朝の落語をヒントに数十億円」など、常識では考えられない、非常識ともいえる受注を続けた。どの場合も、一回こっきりのオリジナルの作戦だった。

サウジアラビアは歴史的にもヨーロッパのメーカーが市場を握っている場所であり、彼らは長年の人脈を持っているが、逆に言えばヨーロッパのメーカーは油断し、傲慢になっていた。しかし、そこに切り込むには、知恵無くしてはどうしようもない。

私はサウジアラビア時代から、アイデアマラソンを開始して、現在に至るまで 35 年間に、48 万個の発想を 484 冊のノートに書いてきている。本の出版も、50 冊を超えた。

全て一般の企画出版で、実費出版は一冊もない。2017 年の 10 月からは、アマゾンのキンドルで本を出し始めた。現在、1 年で 30 冊になるが、これを後 4 年ほどの間に 100 冊にすることを目指している。これもアイデアマラソンのノートにエッセイを書いてきた習慣から可能となった。

1999 年以来、毎日 50 個の発想を書きとめている。一日も欠けていない。このまま行けば、100 歳の誕生日に 100 万個の発想に達する。iPS 細胞の活用を祈ろう。

今回の多摩プロバスの定例会で気が付いたのは、みなさんの目つきがアイデアマラソンの好奇心に溢れている方々ばかりだということ。その面白いことを探す目つきはまさにアイデアマラソン向きである。

もともと考えて書き留めるというのは、人間の他の動物と比べて極めて特異な特別能力である。これを毎日続けるというだけで、ボケ予防、知的活動による長寿、好奇心を満足させる精神的な充足感、そしてアイデアマラソンに独特の幸運、つまりツギが来るということ。そのためには、今、近所の文具屋さんに行って行って A5 のサイズのマルマン製のファイルノート一冊購入して、楽しかったこと、面白かったこと、珍しいこと、驚いた事などを思い出し、そのタイトルを一個ずつでも毎日書くことだ。そして、どんどんエッセイを書いて、出版していこう。では、頑張ってください。

【講師紹介】小池博総務委員長(写真の左側)が講師紹介中「サウジにはロマンがある」の掛け声のもと、三井物産とサウジアラビアに進出した 1970 年代からの相棒、素晴らしい成果をあげてくれた。ナイジェリア・ベトナム・ネパールの三井物産支店長も務め、その際発想したアイデアマラソンを極め、現在アイデアマラソン研究所所長で博士です。



2. 真空の使われ方

真空テクノサポート代表 木ノ切恭治氏

1. 真空とは空気が全然ないことではありません。

日本工業規格 JIS では、「真空とは大気圧より低い気圧で満たされた空間の状態」と規定されています。従って、空気が全然ない状態ではありません。地球上では高度が段々高くなると気圧が低くなります。しかし、宇宙の果てでも気体の分子は残っています。



2. 真空の利用

真空の状態を日常生活の色々な物に利用しています。真空パック、真空チルド冷蔵庫、真空掃除機、真空硝子、フリーズドライ、真空予冷、布団圧縮などです。

3. 真空利用技術

(1) 差圧(大気圧と真空の圧力差)の利用

真空採血管、酪農用搾乳機、歯科治療器、真空コンクリート、真空成型、最近に使われなくなりましたがエアシューター、バキュームカーなどがあります。

また、トランスのコイル内に絶縁油を含まれたり、コンビニ弁当の小さな醤油小瓶に醤油を注入するのにも使われています。

(2) 対流による熱伝導がない事を利用する

魔法瓶、真空ガラス、冷蔵庫の真空断熱材などがあります。

(3) 蒸発を利用する

真空中で冷却する真空冷却は、食中毒防止に役に立ち、野菜を生産地から都会に送る真空予冷は、新鮮さを保つのに役に立ち、真空状態で水分が蒸発する性質を利用するものに、フリーズドライ即席スープやコーヒーがあります。

また、焼酎の蒸留を真空で行うとまろやかな味になります。石油の蒸留に使うと高温での分解を防ぎ、余すことなく利用できます。

また、鉄鋼の生産工程における真空利用は、脱ガス作用で低酸素の高張力鋼が造られ、その多くが日本の自動車の品質向上に寄与しています。

真空中で加熱された材料が蒸発して出来た金属膜を利用する技術としては、メガネの反射防止膜、自動車のシールドビームなどがあります。

(4) 酸素がないことを利用する

真空は、光を発するフィラメントの蒸発を防ぎ、電球の寿命を長持ちさせます。現在は、アルゴンガスなどを入れて更に性能を向上させています。食物を長持ちさせる真空パックや、切り花を長持ちさせるためにも真空が使われています。

(5) 放電を利用する

気体の分子が少ない真空の状態では、放電が起き易く、半導体製造に無くてはならない性質です。その放電を利用すると身近な物ではネオンサインや蛍光灯、健康診断のレントゲンに使う X線管、医療用加速器、電子顕微鏡などに使われています。

また、液晶ディスプレイ、太陽電池、CD・DVD などこの技術があつてこそ実現したものです。

(6) 真空の高耐圧利用

電力の送電・配電で、電気を安全に入り切りするために用いる遮断器に真空が使われています。

非常に難しい技術だったので、欧米では利用を諦めていましたが、日本の技術者の努力で現在は三千ボルトから六万ボルトまでは全て環境に優しい真空遮断器になっています。

1. 多摩市国際交流センターと私 中村昭夫会員

私は会社の駐在員として4年間の在米勤務、この間にヨーロッパへ4回、南米へ2回の出張、また帰国後、円高による輸出品のコストが合わなくなり海外での生産によりコスト削減を行うという課題に対処するため、中国・韓国・台湾を始め東南アジア各国に工場設立の折衝で何回も訪問した。このような中で各国の多くの人々と交わることが出来た。この経験から退職後、多摩市国際交流センター(TIC)の活動に参加した。

TIC では在日外国人に対して先ず日本語の習得を優先し、これに加えて日本文化の手ほどきや生活相談、住民としての諸手続きのお世話など在住のための生活支援活動も行っている。日本人に対しては、外国人講師による英語、フランス語、中国語などの語学講座を開設して受講者の方々の

外国理解を深めている。また市民に対して、国際理解を深めてもらうために各国の伝統文化や現地料理の試食などの国際フェスタのイベントも行っている。このような活動の中で、私は新規事業やTIC全体で行う行事の企画を立案する部門で業務を担当した。2年後に理事に推挙され、理事としての活動も付加された。

TICは組織的には市の一部門であり事務局長・事務担当者は市の職員で運営されてきたが、市より事務局もTIC独自で運営するようとの通達を受け、理事会で事務局長を中村が担当してほしいとの要請を受け、会員の中からボランティアスタッフを選んで事務局運営をすることとした。

先ず最初に手掛けたのは月次会計システムの構築である。会員の会費と市からの補助金で運営されている収支を明確にし、月次毎に収支計算書を会員に提示するようにした。

次に着手したことは、定期総会を年度初めに開催して会員に対して事業報告、決算報告、次年度の事業計画、予算を提示し、会員の承認を得てTICを運営してゆくこととした。

入会12年後に理事長に推挙され、6年間理事長として全体業務を推進した。

市内の小中学生に対するESD教育支援活動として、外国人会員による自国の紹介や外国人が日本をどのように評価しているかなどの紹介。市内在住の外国人に対しては日本の習慣や生活などを理解してもらい、あわせて市民の方々が世界を理解して、外国人と共存できる国際都市多摩市を目指した活動を推進してゆくことが、TICにとって重要な課題であると考えて業務を推進した。

今後のTICの発展を期待したい。

2. エコリノ協議会

山田正司会員

正式には集合住宅環境配慮型リノベーション協議会と云い、多摩市の支援を受けて市民が主体となって活動する、エコリノ(エコロジカルリノベーションの略)協議会の現状を紹介いたします。

私の現役時代の仕事は主に集合住宅及び団地設計の分野でした。そして現在、自らが設計に深く関与した多摩ニュータウンのタウンハウス団地に住んでおります。私と同様に、多摩ニュータウン建設に関わった技術者やコンサルタント、マンション管理の専門家が数多く多摩市には住んでいます。皆さん様に多摩ニュータウンの現状、将来には大変深い関心を持っています。

御存知昨今の不動産業界では、住宅の評価は何より床面積、築年数、最寄り駅までの距離が最優先されて、団地の持つ都市基盤の充実、豊かな緑、コミュニティーや管理の良さなどは後回しにされがちです。

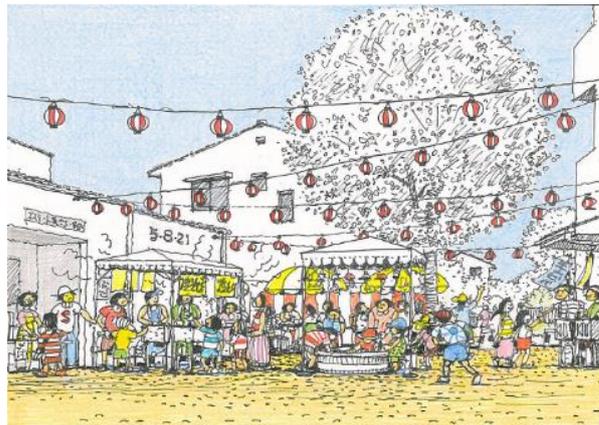
そこで多摩市環境部では全国に先駆けて、市民が主体となった地域の専門家集団(エコリノ協議会)による、市内集合住宅団地の総合的な環境性能を高める再生事業の支援を2015(平成27)年度より推進しております。

具体的には、市内の集合住宅団地管理組合に向けて、エコリノ協議会への協力要請の受け入れ募集をします。年間3団地を選別して、協議会メンバーによる3グループの協力体制を作って、ヒヤリング、現況調査、住民アンケート調査をします。団地住民の多岐にわたる要望や課題を整理して、管理組合との調整を経て後、最後に総合提案をします。

過去3年間に関わった9団地には、多摩ニュータウン以外の市街地マンションや低層・中層・高層・混合団地に至るまで極めて多様です。中にはさらに前進して提案内容を大規模修繕に取り入れたり、さらに精度を上げた提案を求められた団地もあります。

提案が実現するまでには住民合意を得るための更なる時

間と経費が必要です。しかしこうした運動が集合住宅や団地の総合的価値の維持発展に役立ち得ることをこの活動を通して強く実感しております。



某団地集会所回りの整備提案

3. 道祖神と地藏菩薩

上田清会員

今年も全陶展が東京都美術館で開催され、小生も大鉢「群青」を出品させて頂きました。

時の経つのは早いもので、いつしか全陶展への出品も今回で18回目となり、長年にわたって沢山の思い出を作ってくれた当展をはじめ、多彩な芸術文化を知る機会となった上野に感謝しているところです。

また、陶芸を始めて早や30余年、良くも悪くも人生の貴重な時間?を消費してきたわけですが、今もって満足できる作品に出合えず、これも凡人の凡人たる雑念が招いた結果によるものと反省している次第です。

そして今、この間における様々な経験を教訓として、御仁に大切にされ継承されるような作品とは何か……?古来より地域社会や家族等の守護神とされてきた「道祖神」や「地藏菩薩」はどうか……?など、試行錯誤する中で試作品づくりをしている状況です。



試作中の道祖神と地藏菩薩

俳人の松尾芭蕉は「奥の細道」の前文で「道祖神に誘われて旅に出た」旨を記していますが、地藏菩薩も同様に旅の安全や人々の幸運を願う神仏として祀られてきた数百年の歴史があります。

小生の力量からいって、さしたる作品ができるわけではありませんが、畏敬の念をもって琴線の領域に触れることができればと思っております。

◇◇◇ サークル活動 ◇◇◇

からまつ合同句会他 登坂征一郎会員

9月29日(土)、からまつ俳句会の同人総会ならびに山河賞表彰、合同句会が町田市民ホールにて行われました。

1) 10:00~12:00 ; 同人総会並びに山河賞表彰
 ・同人総会は、18年度の活動報告、19年度の活動計画ならびにからまつ35周年記念事業に向けての計画づくり並びに体制について審議されました。

・北村克彦(俳号:岳人)会員が、同人に推挙されました。
 ・増山敏夫(俳号:胡桃子)会員の「脳腫瘍顛末」と題して応募した作品が、山河賞選考の結果、最高位の山河賞を受賞されました。また、由利雪二名誉主宰から、胡桃子さんは大変実力がつき、独自の境地で作句に努めるようにと最高の賛辞をいただきました。

(からまつ山河賞は、10句一組の俳句を自由題で応募し、優秀作品を表彰するもので、今年度は53人の応募があり、実力伯仲の優秀作品が多く、激戦の中選考されました。)

2) 13:00~16:00 ; 合同句会(写真下:合同句会風景)

合同句会には43名の参加がありました。
 参加者は、2句ずつ投句し、これの清記された投句集を参加者が3句ずつ選句(役員は5句)。

これを受けて披講が行われ、参加者の投句した2作品の獲得点数の合計で高得点から順位が発表されました。



- ・第1席代表作：
 一粒に一つの命大根蒔く 内藤雉子雄
- ・句会参加者の代表作(残念ながら入賞者なし)
 風の盆
 女舞泳ぐ緋色の盆浴衣 増山胡桃子
 伸び上がるクレーン罎雲つかみ 北村岳人
 山栗を齧りし遙か少年期 登坂爽風

◇◇◇ ご冥福をお祈りいたします ◇◇◇

会友 蓮池光枝様

入院療養中、9月27日ご逝去されました。謹んでお悔やみとご冥福をお祈り申し上げます。

平成18年4月に入会され、研修・親睦、地域奉仕委員会等でご活躍頂きました。ご趣味は大正琴、俳句を嗜まれ、句会ではもとよりからまつ俳句会同人として活躍されました。夫婦愛に満ちた素晴らしい句を詠まれ、惜しい方を失い残念でなりません。遺作の一句は心に沁みてきます。

鳥までも家路に急ぐ秋日暮れ 蓮池光花
 (登坂征一郎会員記)

◇◇◇ ハッピーバースデー ◇◇◇

1. 9月誕生日を迎えられました！



左から秋山正仁、鈴木達夫、登坂征一郎、増山敏夫各会員
 各位から一言；

秋山：傘寿に感謝・百年時代 人生には定年なし。

鈴木：隣に大谷戸・桜ヶ丘公園緑多く散歩最適！

登坂：八十路を越え日々若さの気概を持つ。

増山：頑張らない、日日は好日が理想です。

2. 10月誕生日を迎えられました！



左から中村昭夫会員、藤寄喬子会員

各位から一言；

中村：人に喜びを与え感謝される活動を続けてゆきたい。

藤寄：目指そ シンプル 淡々と。

◇◇◇ 編集後記 ◇◇◇

猛暑や豪雨が列島を駆け巡り、北海道では未曾有の地震災害をもたらせた夏も過ぎ、やっと爽やかな秋到来。多摩市文団連祭りの最中、プロバスニュース第81号をお届けします。

○のつけから鈴木幹事の「その日私は武道館にいた」の「ごあいさつ」では、内容と共に表現の巧みに驚き笑わせてくれます。

○「幹事・委員会報告」はいずれも掲載写真の皆さんの笑顔が、その活動内容の充実ぶりを表現しています。

○白いターバン、サングラスにちょび髭の小池総務委員長紹介と共に、樋口健夫博士の「アイデアマラソンの講話」は話も文も冴えわたっていました。また木ノ切恭治氏の「真空の使われ方」でも、私たちの日常でいかにその技術の恩恵に浴しているかを強く実感しました。

○「会員の活動」では多摩市の誇るTICにとって、中村会員の存在がいかに大きいかを改めて確認し、上田会員は陶芸作家活動がいよいよ佳境に入り、今後の成果に期待が大きく膨らみます。

○俳句句会の「サークル活動」は、今や皆俳人の領域に至らばかりの上達ぶりで感服です。

○ハッピーバースデーを迎えられた面々の一言は、いつもながらみな含蓄深し。では次号も皆さん多くの参加を得ての乞うご期待です。(広報委員 山田正司会員記)